

FVI「声なき者の友」の輪
Friends with the Voiceless International



2018年 春号

URL : <http://www.karashi.net/>

8世紀日本の文明開化

「純日本的文化」を称揚する排他的なヘイト本が、日本では今「売れ筋」だそうです。

久しぶりに長年の親友・多胡元喜氏と会う機会が与えられました。この際、彼の名前を冠する「多胡碑」を含む上野三碑（群馬県）がユネスコ世界記憶遺産に登録されたと伺いました。古代日本と東アジアの交流を示す貴重なものだそうです。

元明天皇が日本最初の流通通貨「和同開珎」を発行、元号も「和銅」と改めたのが708年。和銅四年（711年）に建立されたのがこの「多胡碑」。「胡」は「異国」を指すものなので「多胡郡」は異国人を多く集めた居留地のこと。伝説によると、多胡羊太夫という名の異国人が日本で自然銅を発見、採鉱や貨幣鑄造の新しい技術を紹介した功によって、多胡郡の郡司に任じられ、「藤原」姓を賜ったとあります。8世紀の文明開化は渡来の民によってもたらされたということなのです。

遣隋使・遣唐使などを派遣し大陸との交流を推進していた日本には大陸からも多くの人々が渡来し、移り住んでいたことをはっきり示す貴重な碑がこの「多胡碑」です。

江戸時代、松浦静山が記した「甲子夜話」によると、多胡碑の傍らから発見された石槨にJNRIという文字が刻まれていたとあります。多胡碑建立当時の大陸では「大秦景教流行中国碑」が建てられるほど景教（キリスト教）が大流行していたことを鑑みると、西欧キリスト教を日本に伝えたフランシスコ・ザビエルより800年以上前に日本に渡来していた異国人のなかには多くのキリスト教徒がいたことは想像に難くありません。

1000年以上の歴史と伝統を持つ「純日本的文化」と言われるものの多くが、実は渡来の多様な文化に由来するものであることが見えてくるのではないのでしょうか。

「声なき者の友」の輪 神田英輔

* FVIの働きは皆さまからのご支援に支えられているカタリストによって担われています。献金をもって各カタリストをご支援くださる際には、振り込み用紙に「神田指定」などとカタリスト名をご明記ください。